

メッセージアウトライン マタイの福音書 7:21~27 「岩の上に家を建てた人」

21節以下はイエスの山上の説教の最後の締めくくりとなっている。

[21]「わたしに向かって、『主よ。主よ』という者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです」

「わたし」とはイエス・キリスト。「主」ということばは元来敬意を表す語であり、しもべがその主人に対して呼びかける場合、著名な人に敬意を表す場合、弟子たちがイエスを教師、主人として呼びかける場合などに用いるが、それはまた神に対して、メシヤなるイエスに対して用いられる。この箇所の場合、神またはメシヤとしてのイエスであろう。そのようにイエスに呼びかけることができるほどの知識があっても、彼らがみな天の御国（天国）に入るのではない。「天におられるわたしの父」すなわち神のみこころを行う者が入るのだとイエスは言われる。「みこころ」とは聖書に示されている神の意志、神が私たちに望んでおられること。……神の国とその義とをまず第一に求めること、自分を愛するように隣人を愛すること、常に喜び、絶えず祈り、すべてのことに感謝すること等々。

[22-23]「その日には、おおぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇跡をたくさん行ったではありませんか。』しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れていけ』」

「その日」とはイエス・キリストが王の王、主の主、さばき主として再びこの世に来られる世の終わりの時、再臨の時。その日にはクリスチャン、信仰者といわれる多くの人々がイエス・キリストの前で自分の行いや実績を誇る。しかし、イエスは彼らを全然知らないと言われ、不法をなす者と呼ばれ、滅びを宣告される。

[24-25]「だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行うものはみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです」

ここではイエスのことばを聞いて、それを行うことが強調されている。みことばを聞いてそれを実際に行うことは多くの努力を必要とする。→ I コリント9:27 それはちょうど固い岩盤につるはしやドリル、削岩機などで穴をあけて、その上に家を建てるようなものである。しかし、そのようにして建てられた家は雨や洪水が押し寄せ、台風がやって来ても倒れることはない。

[26-27]「また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、それは倒れてしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」

砂の下に隠れている岩盤まで掘り進めないで表面の砂の上に土台を置けば家は簡単に建てることができる。しかし、25節と全く同様の試練が来た時、この家はひどい倒れ方をしてしまった。これは永遠の滅びを暗に示している。

クリスチャンである、信仰者であるということはどれだけ賜物があってイエスの御名によって不思議なわざ、力あるわざができるか、どれだけ聖書的知識があるかということによるのではなく、ただ、イエス・キリストのみことば、聖書のみことば、父なる神のみこころを行い、実行するか、それに生きるかということにかかっている。→ヤコブ2:14~26 逆に言えば、イエス・キリストを自分の救い主と信じる信仰が生きているからこそ、そこからみことばに従うという行いが出てくるわけである。

口先だけ、頭だけの信仰で生きていると人生の試練が押し寄せてきた時に、ひどい倒れ方をしてしまう。しかし、みことばを聞き、それに従い、実行する生き方をしている時、どのような人生の試練でも乗り越えることができ、やがて主イエス・キリストがさばきのために再びこの世に来られる時には豊かな報いをいただき、喜びを持って天の御国へ入ることができるのである。

この新しい年、私たちは自分の信仰を吟味しつつ、ただ聞くだけでなく、聞いたみことばを行い、イエス・キリストにしっかりととどまり、岩の上に自分の家を建てた賢い人のように生きる者になりたい。最後に→ヤコブ1:22~25